

2011年（平成23年）10月2日（日曜日）

フットパスを活用 観光誘客など探る

長井で日本シンポジウムが始まる

「日本フットパスシンポジウムながい」が1日、長井市内で2日間の日程で始まった。初日は同市T.A.



フットパスによる地域活性化について意見を述べるパネリスト

＝長井市

した。パネルディスカッションなどが行われ、関係者が理解を深めた。

同市かわまちづくり推進協議会の安部義彦会長ら関係者5人によるパネルディスカッションでは、「散策を楽しむ小道」を意味するフットパスを活用した観光誘客が、主に議題になった。

宿泊施設や交通網の整備、観光ガイドの養成、安全確保、維持管理の方法などが課題に挙げられた一方、「観光客はフットパスなどを（時間をかけて）歩くことによって十分に活用し、その土地の暮らしや文化をしっかりと捉えることができるといえるのでは」との意見が出た。約300人の来場者は熱心に耳を傾けていた。これに先立ち、コーディネーターを務めた斎藤潮東京工業大学院教授が基調講演した。

最上川流域観光交流推進協議会（会長・内谷重治長井市長）などが主催。同市や川西町など21団体が加盟する日本フットパス協会（会長・石阪丈一東京都町田市市長）が共催した。最終日のきょう2日は、フットパスを歩いて長井市近郊を観光する。

Sビルで「フットパスによる地域活性化」をテーマに

理の方法などが課題に挙げられた一方、「観光客はフット